



一歩進めていきましょう

校長 中山 正之

卒業式の頃に咲き始めた桜の見頃が、もう終わろうとしています。それに代わるように校庭の木々がさわやかな緑色の葉をつけるようになりました。4月を迎え、令和3年度が始まりました。新型コロナウイルスの収束はまだ見通せず、今年度も様々な場面で教育活動の在り方を考えていかななくてはなりません。本校では横浜市教育委員会の「教育活動に関するガイドライン」をベースにし、そこに昨年度の本校の経験も生かして、健康的で安全な生活を築いていきたいと考えています。また、保護者の皆様や地域の方々からのお声をしっかりと受け止め、共に考えていく姿勢も不可欠だと考えています。これから一年間、これまでと同様のご理解とご協力をいただきますよう、お願いいたします。

今年度は124名の新1年生を迎え、全校で778名の児童で学校生活を始めてまいります。1年生から6年生までを4クラスの編制とし、個別支援学級を5組から10組までの6クラス編制とします。教職員一同、一人ひとりを大切に支援してまいります。ご心配なことがありましたら、いつでも学校にご相談ください。保護者の皆様と一緒に考えてまいります。

さて、例年始業式や入学式で私は子ども達に「あいさつを大切にしよう」という話をします。「おはよう」「こんにちは」「さようなら」「ありがとう」「ごめんなさい」の五つの言葉を生活の中でしっかりと使えるようにしようという内容です。基本的な部分は変わっていませんが、毎年呼びかける内容を一歩進めたいと思っています。今年は「ありがとう」と「ごめんなさい」と特に意識していこうと呼びかけました。本校の子ども達は、「おはよう」や「こんにちは」「さようなら」といった日々同じ場面で繰り返す挨拶は、とても良くできます。相手に目を向け、マスク越しでも分かる、にこやかなトーンで言ってくれます。一方、「ありがとう」や「ごめんなさい」は、感謝や謝罪の気持ちが伴わないと出てこない言葉です。また、気持ちがあつたとしてもとっさにはなかなか口に出せないこともあります。日々子ども達と接していると、気持ちはあるのにためらっているなど感じることもよくあります。ですから、私は今年度子ども達にこの部分を一歩進めてほしいと思っています。つまり、「そう感じたら、『ありがとう』と『ごめんなさい』を言葉にしよう」ということです。

それから、もう一つ。「ありがとう」「ごめんなさい」に対して、何と答えるのか。これは子ども達への問いかけとして預けました。「私はこう答えました」でも「友達は私の『ありがとう』にこう答えてくれました」でもいいのです。少し意識することで、当たり前のことを改めて考えてみる機会をもち、家族や友達との接し方を少しでも豊かにしてくれたらと願っています。ご家庭でもお子さんの言葉に注意深く耳を傾けていただき、何か変化が感じられたら、ぜひ褒めてあげてください。私も折に触れ、「ありがとう」「ごめんなさい」を話題にしていきたいと思います。

今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

